

インタビュー

地域おこし協力隊

前迫昇吾 蔵元恵佑

地方に移住し、地域課題を共に発見・解決していく「地域おこし協力隊」。南九州市には現在3名の隊員がいます。今回は、隊員の前迫さんと蔵元さんにお話を伺いました。

(インタビュアー 鮫島信行)



前迫昇吾(写真左)

1989年、鹿児島市生まれ。
大学卒業後、東京を拠点に
webデザイナーとして活躍。
2016年より本市に赴任。

蔵元恵佑(写真右)

1989年、鹿児島市生まれ。
大学卒業後、大手家具メー
カーに勤務。2017年より本
市に赴任。(株)オコソコ代表。

——本市の協力隊に応募されたきっかけは何だったのでしょうか。

前迫 NPO法人頤娃おこそ会の加藤さんとの出会いです。「地域にデザインが足りない」と協力隊の応募に声をかけてもらいました。

蔵元 私も加藤さんがきっかけです。人に惹かれて応募したと言えます。

——隊員になられて良かった点を教えてください。

前迫 東京ではWEBデザインの仕事をしていましたが、地域では紙媒体でのデザインを求められることも多く、そのスキルが上がりました。空き家再生の本をデザインし完成させたことが印象に残っています。

蔵元 メーカー勤務時代は売ることが仕事でしたが、現在は企画や商品を見つけたり作る場所から始めます。ゼロからの挑戦で様々な人と出会い、自分が成長できていると感じます。

——逆に残念だった部分を教えてください。

前迫 非常に安価に仕事を依頼されることがあります。自分が地域おこし協力隊だからかもしれないし、デザイン業になじみが薄いからかもしれない。地域でデザイナーという仕事が成り立つため、安易に仕事を受けないと決めていました。

——最後に一言お願いします。

蔵元 残念な部分は無いのですが、驚くことはあります。例えば公民館の予算。貯金がたくさんあるけれど使い道が決められない。責任をもってお金をハンドリングできる人が地域に求められていると感じます。

——最後に一言お願いします。

前迫 人口減少は止められない流れです。この流れに沿って、既存の組織を再編したり多様な声を反映させたまちが求められていると思います。

蔵元 南九州市が「何のまち」なのかしつかり絞って掲げるべきです。そうすれば市の制度設計もやりやすくなるし、共感を得た人が来てくれると思います。

編集後記

市は、人口減少に歯止めをかけようと、移住定住の促進や交流人口の促進を図るため各種事業に取り組み、健康な状態で少しでも長生きをして欲しいとの対策を講じています。

平成28年度からは「貯筋運動」を地域に広げる取り組みが始まり、活動する団体も少しずつ増えているようです。

大川かまふた会は、高齢者の方々の会で、結成から10年を経過し、毎月2回の集会ではもの足りないという方もおられるほどです。

会では、歌を歌い、貯筋運動をし、さらには自治会内の除草などのボランティア活動を行っています。

特に、独居生活の方にとって、この時間は楽しみとなっています。

市としても活動費の助成を行いながら、長寿社会づくりに積極的な取り組みを行っており、これからも高齢者の方が一人でも多く地域の活動に参加して、楽しい人生となることを期待しています。(米満)

広報編集委員会

委員長 鮫島 信行
副委員長 日置 友幸
委員 米満 孝二
大久保 太智
内園 知恵子
松久 保正毅

